



都民生活の向上に全力!

— うつ病対策、浸水被害防止などで論戦リード —

東京都議会の第3回定例会（9月21日～10月7日）で都議会公明党は、うつ病対策や浸水対策、教育環境の整備など、直面する都政の課題について、積極的に政策提言を行うなど活発な議論を展開しました。本会議での代表・一般質問で、都議会公明党の主張が実り、大きく前進した都の取り組みを紹介します。

うつ病治療

◆ 認知行動療法実施する医療機関を周知

公明党が推進し、うつ病患者をサポートする「認知行動療法」が、今年4月から保険適用の対象になりました。これを受け、都は医療機関案内サービス「ひまわり」に認知行動療法を行う医療機関の情報を追加します。

◆ 医療・福祉関係者の研修対象者を拡大

認知行動療法を都内医療・福祉関係者に広く普及させるため、都は区市町村の保健師など専門職を対象としてきた実務研修の対象を、医療機関の精神保健福祉士や看護師などにも拡大します。



福祉

医療



浸水被害の防止

◆ 1時間50ミリの上回る集中豪雨への対応急げ

近年、都の河川整備計画の基準である「1時間50ミリの降雨」を大きく上回る100ミリ超の集中豪雨が発生し、河川からあふれ出た水が甚大な被害をもたらしています。都は今後、学識経験者などの意見を聞きながら、河川の安全性を向上させるための検討を深めていきます。



◆ 地下調節池を連結した広域調節池の検討へ

局地的かつ短時間の集中豪雨による浸水被害を防ぐには、一時的に河川の水をためる調節池の活用が有効です。都は今後、複数の地下調節池をトンネルで連結し、流域を越えて相互に活用できる「広域調節池」について検討を進めます。

食物アレルギー「ガイドブック」 全保育所、幼稚園に配布

東京都はこのほど、保育園や幼稚園などに、「食物アレルギー日常生活・緊急時対応ガイドブック」を作製・配布しました。

これは、昨年第2回定例会の代表質問で、こいそ善彦都議会委員が「都として共通のガイドラインや個別対応のカードなどを示せ」と早急な対応と体制整備を提案。これに対し都側は「ガイドブックを都内すべての保育所、幼稚園に配布する」と答えました。

ガイドブックはA4判フルカラーで、すでに都内の保育所、幼稚園など約6000カ所に配布。最大の特徴は一人一人の子どもに、きめ細かく対応できるよう「食物アレルギー個別取り組みプラン」を掲載していること。施設側は、このプランを作成する際に保護者と面談を行い、アレルギー原因食物や、留意事項を把握。また緊急時における連絡先や、主治医なども細かく記載し、事前に緊急時での行動を明確化します。

また、DVDが添付され、自己注射薬「エピペン」の使い方まで学習できます。

